

相談援助の理論と方法

問題 98 事例を読んで、R市子ども福祉課の社会福祉士が行う、家族システムの視点に基づいた今後の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Jさん(15歳)は、小学6年生の時に父親を交通事故で亡くした後、母親(37歳)と母方の祖母(58歳)の3人で暮らしている。母親は、朝から夜中まで働いているため、家事全般は祖母が担っている。Jさんは、中学生になった頃から、祖母へ暴言を吐くようになり、最近では家の中で暴れたり、家に帰ってこなかったりするようになった。祖母は途方に暮れ、友人でもある近所の民生委員・児童委員に相談すると、R市子ども福祉課の相談窓口を紹介され、来所につながった。

- 1 祖母に思春期の子への対応方法を学習する機会を提供する。
- 2 家族の凝集性の高さが問題であるため、母親に祖母との距離を置くよう求める。
- 3 家族関係を理解するため、3人の互いへの思いを尋ねていく。
- 4 家族システムを開放するため、Jさんの一時的別居を提案していく。
- 5 家族の規範を再確認するため、それぞれの役割について話し合う機会を設ける。

問題 99 ソーシャルワークのアプローチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 行動変容アプローチでは、クライアントの主体的な意思決定や自己選択が重視され、自分の行動と決定によって生きる意味を見いだすことを促す。
- 2 問題解決アプローチでは、クライアントのニーズを機関の機能との関係で明確化し、援助過程の中で、社会的機能を高めるための力の解放を焦点とする。
- 3 実存主義アプローチでは、その接触段階で、クライアントの動機づけ・能力・機会についてのソーシャルワーカーからの探求がなされる。
- 4 ナラティブアプローチでは、クライアントのドミナントストーリーを変容させることを目指し、オルタナティブストーリーを作り上げ、人生を再構築するよう促す。
- 5 機能的アプローチでは、ターゲット問題を明確化し、クライアントが優先順位をつけ、短期処遇を目指す。

問題 100 エンパワメントアプローチに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 クライアントが持つ資源より、それ以外の資源を優先して活用する。
- 2 クライアントのパーソナリティに焦点を絞り、行動の変化を取り扱う。
- 3 クライアントのパワーレス状態を生み出す抑圧構造への批判的意識を醸成する。
- 4 個人、対人、組織、社会の四つの次元における力の獲得を目指す。
- 5 クライアントが、自らの置かれた社会状況を認識しないように注意する。

問題 101 相談援助の過程におけるプランニングに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アセスメントと相談援助の実施をつなぐ作業である。
- 2 短期目標は、将来的なビジョンを示すものとして設定する。
- 3 家族の要望に積極的に応えるような計画を立てる。
- 4 生活状況などについて情報収集し、サービス受給要件を満たしているかを確認することである。
- 5 クライアントの課題解決能力を超えた課題に挑戦するよう策定する。

問題 102 相談援助の過程におけるモニタリングに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 文書や電話ではなく、クライアントとの対面で行うものである。
- 2 モニタリングの内容を記録に残すよりも、情報収集に集中することを重視する。
- 3 モニタリングの対象には、クライアントやその家族とともに、サービス提供者等の支援者も含まれる。
- 4 クライアントの主観的变化よりも、生活状況等の客観的变化の把握を重視する。
- 5 モニタリングは、インテークの途中で実施される。

問題 103 相談援助の過程における終結に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルワーカーが、アセスメントを行い判断する。
- 2 残された問題や今後起こり得る問題を整理し、解決方法を話し合う。
- 3 クライアントのアンビバレントな感情のうち、肯定的な感情に焦点を当てる。
- 4 クライアントは、そのサービスを再利用しないことを意味する。
- 5 問題解決の過程におけるソーシャルワーカーの努力を振り返る。

問題 104 ソーシャルワークにおける援助関係に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 転移とは、ソーシャルワーカーが、クライアントに対して抱く情緒的反応全般をいう。
- 2 統制された情緒的関与とは、ソーシャルワーカーが、自らの感情を自覚し、適切にコントロールしてクライアントに関わることをいう。
- 3 同一化とは、ソーシャルワーカーが、クライアントの言動や態度などに対して、自らの価値観に基づく判断を避けることをいう。
- 4 エゴグラムとは、ソーシャルワーカーが、地域住民同士の関係について、その相互作用を図式化して示すツールをいう。
- 5 パターナリズムとは、ソーシャルワーカーが、クライアントの意思に関わりなく、本人の利益のために、本人に代わって判断することをいう。

問題 105 事例を読んで、U大学の留学生支援室のK相談員(社会福祉士)のLさんへのこの時点での応答として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

S国からの留学生のLさん(24歳, 女性)は、5年前に来日した。来日後1年でU大学に合格したLさんは順調に学業を続け、4年の後期試験を受けて卒業の見込みとなっていた。ある日、目を真っ赤にして留学生支援室を訪れたLさんは、K相談員に以下のように話した。

「私は来週の後期試験2科目を受けて卒業の見込みです。しかし、昨日母から電話をもらい、私の祖母が末期のがんと知らされました。すぐにでも帰りたいのですが、試験を受けなければ卒業できず、かといってこんな状況では試験勉強も手につきません」

- 1 「帰国したいけれどもできない、その板挟みで苦しいのですね」
- 2 「おばあさんにはお母さんがついていらっしゃるから大丈夫です」
- 3 「お母さんは、さぞかしお困りでしょう」
- 4 「すぐにでも帰国できるよう私が調整します」
- 5 「お母さんも期待しておられるし、あと2科目で卒業だから頑張りましょう」

問題 106 事例を読んで、V児童養護施設のM児童指導員(社会福祉士)が用いた面接技法の組合せとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(11歳, 女性)は、10歳からネグレクトによってV児童養護施設に入所していた。1か月後に施設を退所し、実母と再婚相手の3人での生活が始まる予定である。ある日、M児童指導員に、Aさんがうつむきながら、「前の学校に戻れるのはうれしいけれども、家には本当は帰りたくない」とつぶやいた。M児童指導員は、少し間をおいてから、「家には本当は帰りたくない…。その気持ちをもう少し教えてほしいな」と静かに伝えた。

- 1 「繰り返し」と「言い換え」
- 2 「繰り返し」と「開かれた質問」
- 3 「言い換え」と「要約」
- 4 「要約」と「閉じられた質問」
- 5 「要約」と「開かれた質問」

問題 107 相談援助における面接等の実際に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 受理面接では、信頼関係が既に形成されているので、クライアントの不安は除去されている。
- 2 生活場面面接では、クライアントの問題となった生活場面を再現することから始める。
- 3 電話での相談では、ソーシャルワーカーからの積極的な助言や指導を中心にする。
- 4 面接室での面接では、ソーシャルワーカーが行う情報収集に役立つ範囲で、時間や空間を設定する。
- 5 居宅での面接では、クライアントの生活環境の把握が可能である。

問題 108 事例を読んで、W認知症疾患医療センターで働くB若年性認知症支援コーディネーター(社会福祉士)のクライアントへの対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Cさん(45歳, 男性)は、仕事の失敗が増えたことを思い悩み、「周りに迷惑をかけたくない」と4か月前に依願退職した。その2か月後にW認知症疾患医療センターで若年性認知症と診断された。今月の受診日にCさんが相談室を訪れ、「子どももいるし、教育にもお金がかかります。妻も働いてくれているが、収入が少なく不安です。働くことはできないでしょうか」と話すのを、B若年性認知症支援コーディネーターはCさんの気持ちを受け止めて聞いた。

- 1 他の若年性認知症の人に紹介したものと同一アルバイトを勧める。
- 2 認知症対応型通所介護事業所に通所し、就労先をあっせんしてもらうよう勧める。
- 3 障害年金の受給資格が既に生じているので、収入は心配ないことを伝える。
- 4 元の職場への復職もできますから頑張りましょうと励ます。
- 5 病気を理解して、対応してくれる職場を一緒に探しませんかと伝える。

問題 109 ソーシャルワークにおけるアウトリーチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 相談機関を訪れたクライアントが対象になる。
- 2 援助の労力が少なく効率的な活動である。
- 3 自ら援助を求めない人への関わりとして有効である。
- 4 住民への関わりや広報を必要としない活動である。
- 5 援助開始前に行われ、援助開始後においては行われない。

問題 110 ソーシャルサポートネットワークに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自然発生的なネットワーク内に関与していく場合と、新しいネットワークを形成する場合がある。
- 2 ソーシャルサポートを提供する組織間のつながりを強めることを第一義的な目的とする。
- 3 家族、友人、知人、近隣住民から提供される支援の総体と定義される。
- 4 インフォーマルなサポートよりも、フォーマルなサービスの機能に着目して活性化を図る。
- 5 情報による支援や物的手段による支援からなり、ソーシャルメディアの利用を目的としている。

問題 111 ソーシャルワークにおけるグループワークに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 グループワークとは、複数の人を対象に行う集団面接のことである。
- 2 グループの開始期において、ソーシャルワーカーはグループの外から見守る。
- 3 グループワークでは、「今、ここで」が大切なので、事前準備は控える。
- 4 グループワークにおけるプログラム活動の実施は、手段ではなく目的である。
- 5 グループワークは、個々のメンバーの社会的に機能する力を高めるために行う。

問題 112 事例を読んで、X基幹相談支援センターのD社会福祉士によるこの段階における対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

X基幹相談支援センターのD社会福祉士は、買物依存のために家族関係の破綻や生活再建に苦勞した人たちから、同じような課題で悩む人たちと経験を分かち合いたいとの相談を受け、自助グループの立ち上げを支援した。1年経ち、中心メンバーから、自助グループ運営の助言を求められた。特にルールを定めず開始したためか、グループでは、他のメンバーへの批判が繰り返され、一部のメンバーは、行政への請願を活動の中心とすることを求めるのだという。

- 1 経験を分かち合いたいとするグループと行政へ請願するグループへの編成を提案する。
- 2 批判を繰り返すメンバーに退会を勧めるための話合いの場を、中心メンバーと一緒に設ける。
- 3 メンバー同士でグループの目的やルールについて話し合うことを助言する。
- 4 グループの司会進行を引き受け、相互援助システムづくりを行う。
- 5 家族関係の再構築と生活再建に向け、全メンバーとの個別面接を遂行する。

問題 113 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 スーパービジョンの目的は、クライアントへの支援やサービスの質を向上させるための専門職育成である。
- 2 スーパービジョンの支持的機能は、スーパーバイザーが適切に業務を行うよう目配りすることである。
- 3 スーパービジョンの教育的機能は、ストレスに対応するようスーパーバイザーの精神面を支える機能である。
- 4 スーパービジョンの管理的機能は、スーパーバイザーが実践するために必要な知識や技術を高める機能である。
- 5 スーパービジョン関係は、クライアントとスーパーバイザーとの契約によって成り立つ。

問題 114 ソーシャルワークの記録に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 フェイスシートには、全体の振り返りや目標達成の評価を記述する。
- 2 アセスメントシートには、目標を設定し具体的な解決策を記述する。
- 3 プロセスシートには、目標に対する援助過程を時系列に記述する。
- 4 プランニングシートには、クライアントの基本的属性を項目ごとにまとめて記述する。
- 5 クロージングシートには、クライアントの主訴、解決したいことを記述する。

問題 115 事例は、Y地域包括支援センターのE社会福祉士によるFさん(74歳、男性)への支援記録の一部である。次のうち、用いられている文体として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

最近、Fさんからの電話連絡が頻回に続き、電話越しに混乱し、慌てている状況があるため、Fさん宅を訪問。財布をなくしたと探しているのを一緒に探したが見付からない。また、部屋が片付けられないのでイライラしている様子。片付けの手伝いをボランティアに頼むことができることを伝えると了承した。

後日片付けの日程の件で訪問。Fさんは片付けのことは忘れており、混乱し、怒り出してしまった。Fさんの言動や生活状況から認知症の進行も考えられるため、関係機関の見守りと早急なケース会議の開催を提案。

- 1 要約体
- 2 逐語体
- 3 過程叙述体
- 4 圧縮叙述体
- 5 説明体

問題 116 社会的排除の状態に置かれ、複雑困難な課題を抱えている利用者と家族に対するソーシャルワークに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 社会的排除の状態に置かれている利用者と家族に対して、プライバシーに配慮した上で、地域住民の協力を求め、利用者と家族の地域生活の継続を支援する。
- 2 利用者との距離を置き、客観的に状況を理解している同居をしていない家族の意向に基づき支援する。
- 3 人との関わりに抵抗のある利用者や課題を持つ家族が多いので、利用者と家族の生育歴や生活歴に特徴的に見られる課題に限定して情報収集をする。
- 4 時間をかけて関係づくりを行い、利用者と家族の意向を踏まえ、優先順位をつけて生活課題やニーズに対応していく。
- 5 利用者や家族のストレングスを見いだすため、利用者自身の弱さを内省するよう支援する。

問題 117 事例を読んで、Z放課後等デイサービスのG児童指導員(社会福祉士)による、Hさんへの面接に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Hさん(28歳, 女性)は、長女Jさん(8歳)と二人暮らしで、Jさんには発達障害がある。ある日Jさんが、通っているZ放課後等デイサービスで、他の子のおやつを食べてしまった。Jさんは、「お腹がすいて我慢ができなかった」と訴えた。G児童指導員の呼び掛けに応じた面談でHさんは、「Jが大事で頑張っているけど、子育てがちゃんとできない自分が嫌」と話した。

- 1 「Jちゃんと少し距離を置くために、施設入所も検討してみませんか」と意向を聞く。
- 2 「Jちゃんを大事だと思って、あなたはよく頑張っていますね」と承認する。
- 3 「家事を手伝ってくれる子育て短期支援事業を利用してはどうですか」と意向を聞く。
- 4 「子育ての方法を教えてくれるペアレント・トレーニングを受けるという方法もありますよ」と情報提供する。
- 5 「Jちゃんにとって大事なお母さんなんだから、しっかりしましょう」と励ます。

問題 118 事例を読んで、病院のK医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)のこの時点の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

Lさん(59歳, 女性)は、利き腕を複雑骨折し入院してきた。手術後も後遺症から細かい作業が困難となった。家族の見舞いはなく、不自然なあざがあり、退院を強く渋ったため、病棟の要請でK医療ソーシャルワーカーが面接を開始した。Lさんは徐々に心を開き、会社員の夫(64歳)から長年毎日のように暴力を受けてきたこと、高校卒業後すぐ結婚し妊娠したため働いたことがないことを話してくれた。子どもたちは他県で家庭を築いているが、経済的余裕はなく、他に頼れる親戚はいないそうである。離婚は考えるものの、収入がなく、今後の生活が心配だという。

- 1 夫に連絡を取り、心理的カウンセリングを受けるよう促す。
- 2 他県にいる子どもの家族と同居できるよう、引っ越しの手配を手伝う。
- 3 行政から委託を受けた民間シェルターに入居するという選択肢を説明する。
- 4 離婚や今後の生活に必要な情報提供をし、生活設計を共に考える。
- 5 仕事を見付けられるよう、公共職業安定所(ハローワーク)に行くことを促す。